

【ハンドメイドバイシクル展 2022】



▲Veno リリーパーを装着した OnebyESU 「JFF#701D」とともにフォークやハンドルなどをシンプルに展示した弊社ブース。リリーパーの操作感を試す方が多数いらっしゃいました。

ドルなどを展示。その中でも Veno「ボーダレスカーボンハンドルバー」(Vol.11 掲載)や「リリーパー」(Vol.36 掲載)など、これまでない形状のハンドルに、特に注目が集まっていたことが印象的でした。多様性が求められる時代を感じるとともに、モノの機能の幹にあるもの…製品に潜む開発背景や経緯などに興味を持たれている印象を受けました。

1月22～23日、2年振りにハンドメイドバイシクル展(HMB)が東京科学技術館で開催されました。41社の参加で国内フレームビルダーのブース以外に弊社含む独創的オリジナル製品のある6社のパーツブランドが出展。

▶弊社ブースでは多数のハンドメイドブランドに採用されている OnebyESU フロントフォークやハン



▲タカムラ製作所の「RAVANELLO」ロードに装着は「OBS-RBD-TH 650B」。敢えて700x25Cタイヤをクリアランスギリギリで装着し小柄なライダーのタイムが上がったとのこと。異なるサイズでもジオメトリーを合わせられるビルダーさんならではの技です。

▶あぶくま自転車工房の「Abukuma」に装着はカンティモデルのテーパードフルカーボンフォーク「OBS-CBC1.5」。カンティブレーキを指定でオーダーされるお客様にも対応できるようにラインナップを続けていきます。



▲今野製作所の「CHERUBIM」人気モデル「Sticky」に装着は「OBS-R101 SL」。1インチカーボンモノコックフォークとして一択で採用されています。



【おそうじクロス】～自転車クロスの先駆け～

「いつも自転車きれいで元気!」「いつも自転車チェーンきれいで快適!」

▶スポーツ車に乗る女性も増え、自転車に対する便利なグッズへの要望も増えて来た2009年のこと。初心者でも手軽にできるメンテナンスグッズの必要性を感じていました。そこで初歩「自転車掃除」はどうなのか。ある女性が「お掃除はしたいんだけど缶のクリーナーを買うこと自体から抵抗があるんです…」と。そんな時、前にあったウェットテッシュに目が行きました。こんなクロスがあれば自転車を気軽に掃除できる!自動車業界で展開されているウェットクロス製造販売会社に掛け合い、コンセプトを伝えると早く商品化に導いていただきました。

▶専門家のアドバイスでワックス入りのフレーム用と脱脂剤入りのチェーン用の2種を開発。使用する日本製の不織布も用途に応じて柔らかく傷の付きにくいフレーム用、メッシュ地で汚れを絡め取るチェーン用に分けました。一袋に入れる枚数も、蒸発前に使いきれような枚数(1週間に一枚として、4週プラス1枚の計5枚)に設定。週末に走って帰宅時にサッと拭く、というルーティン。週1回の簡単な掃除をきっかけとして自転車への愛着も増して、末長く乗っていただきたいという思いが詰まったクロスになっています。自転車界では先駆けとなった「おそうじクロス」、後に手肌用「手肌がきれい爽快!」も誕生。商品名の「元気」「快適」「爽快」に、その思いが込められています。



全3種類となった「おそうじクロス」シリーズ。後に誕生した「手肌がきれい爽快!」は持ち運びを重視し、コンパクトなパッケージに。



使い方工夫…サイクリングでは中身1～2枚を各種それぞれパウチに入れて携帯すると、かさばらずにゴミも持ち帰って便利です。

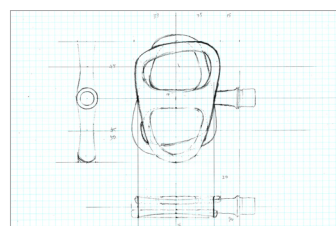
～製品化には至らなかったシリーズ～ (不定期連載コラム)

【第4回】何事にも程がある

▶2016年のこと、フットプリント形状(Vol.40 掲載)の両踏みペダルを出来る限り薄く軽く作る、という命題のもとデザインしたペダル。最薄部分で10mmとなったものの既存のシャフトを使う前提のためシャフト部分がプラス7mm程度厚みが出ました。モックアップを作って使用したところ、フラット系ペダルに一番大切な足裏感がこの7mmの厚みのお陰でどうしても納得出来ずに頓挫しました。諦めきれずに少々厚みが出てもいいから超軽量で超足裏フィットのカーボン両踏みペダルを……と考えたのですが、誰に言うまでもなく今に至ります。



左がモックアップペダル、右のホワイトはフットプリントスポットペダルです。



モックアップ前の初期デザイン。